

第4回 熊本市市民公益活動資金支援検討会議 議事概要

平成23年7月26日（火）14:00～16:00

熊本市役所 8階会議室

議題（1）第3回熊本市市民公益活動資金支援検討会議議事録概要について
（全委員了承）

議題（2）熊本市市民公益活動資金支援検討会議報告書（原案）について
「はじめに」について

座 長 今回の市民公益活動資金支援検討報告書（原案）は、第6次熊本市総合計画に基づき、新しい公共検討委員会の提言、自治基本条例及び市民参画と協働の推進条例の制定を踏まえ、一層の「協働のまちづくり」の推進を図るため、その制度化を目的として検討を行い、その結果を取りまとめたものである。

また、その取りまとめの主体は検討会議という会議体であり、検討会議が提言を行うというスタイルをとっている。

第1 熊本市市民公益活動資金支援検討会議の役割 について
（全員了承）

第2 熊本市市民公益活動資金支援検討の概要

座 長 当初の事務局提案を原案として、会議で出された意見を委員意見とし、その検討結果を制度案として統一表記している。

I 助成の仕組み

1. 団体登録の方法

座 長 原案の通りでよろしいか。
（全員了承）

2. 助成対象となる団体

座 長 原案の通りでよろしいか。
（全員了承）

3. 助成の種類

座 長 原案の通りでよろしいか。
（全員了承）

4. 助成額の範囲

座 長 原案の通りでよろしいか。
（全員了承）

5. 助成対象となる事業と経費

座 長 スタートアップ助成は、できるだけゆるやかにしておきたい。

事業採択に関わる審査会の仕組みは、厳正に構築し、

他方、助成申請（入り口）の条件は低くしておいた方がよいのではないだろうか。

その為、「助成回数は1回のみとする」の文言を「助成回数は原則1回とする」と複数回の助成も可能であるという「含み」を持たせた文言に変更してはどうか。

落合委員 スタートアップ助成は、本市のセールスポイントでもあり、団体育成を目的としているため、その方がいいと思われる。

座 長 変更に関し、意見はないか。

（全員了承）

座 長 「助成を受ける年数」と「助成を受ける回数」の整合性はどうか。

事務局 表現を検討します。

6. 助成対象の費目

座 長 概ね原案のとおりで良いと思われるが、委員から「助成対象の経費」については十分に検討をお願いしたいとの意見があるので、事務局の方で、原則を踏まえた上で、再度、検討をお願いします。

（全員了承）

7. 審査委員の選考、審査会の設置

座 長 委員の具体的な人数などは、要綱等で定める事になると思われる。

（全員了承）

8. 助成事業選考基準の作成・設定

落合委員 地下水、新町の町屋作りなどの歴史、方言などを取り入れた事業を重視してはどうか。

座 長 文化に関することは、政令指定都市の熊本市として情報発信をする際に大きなカギになるのではないか。

宮本委員 介護予防のダンスなど、福祉関連の事業も重視してほしい。どちらかと言うと、子どもを中心にした活動が多いので中高年、高齢者の事業も採用できるようにしてほしい。

座 長 介護などの課題発見型の事業も含め、熊本らしさを表現・工夫できるのではないか。

宮津委員 「若者の居場所作り」等の事業を行っているが、将来の熊本を考えると大きな課題だと思われる。

地域・町内・子どもが頑張ってもうまく行っていない。

NPOを立ち上げた当初は、青少年問題を取り上げる団体は少なかった。今は、いくつかあるがもっと熊本にも団体が増えてほしい。

里親制度についても、国からガイドラインが示されたが熊本の比率は低い方であり、その活動にも支援できるような仕組みにしてほしい。

座長 熊本は「ひとり親世帯」や「虐待」など、多様な家族問題がこの10年で増加してきており、地域の課題解決型事業として取り組むことができるのではないかな。

水野委員 チャレンジ協働事業は官の課題を民と協働して解決するスタイルであるが、登録団体の課題を官が吸い上げ、民に投げかけ、団体同士の協働ができるスタイルもあったら面白いのではないかな。

その際に資金を支援する形もあるのではと思う。

平林委員 団体登録の際に、登録分野を選択できるような仕組みにしたらどうか。

9. 事業の審査方法

座長 原案の通りでよろしいかな。
(全員了承)

10. 事業申請時期及び事業期間

座長 原案の通りでよろしいかな。
(全員了承)

11. 「助成の仕組み」に対しての意見のまとめ

座長 原案の通りでよろしいかな。
(全員了承)

II 寄附の仕組み

1. 寄附の種類

座長 原案の通りでよろしいかな。
(全員了承)

2. 寄附促進の仕組みについて

平林委員 企業の意見として、寄附額に応じて例えば市街地の駐車場の割引などの特典をつければ、快く企業は寄附を行うのではないかな。

事業者は人間の交流の輪を期待している。寄附をした事業者間の繋がり、また、寄附の使い道の報告会など経済界・行政との繋がりなど交流の機会を設ける事ができればと思う。

また、その場に助成団体が参加できるようにすれば、企業からの団体助成への繋がりも生まれてくるのではないだろうか。

座長 今の意見は寄附をする側、助成を受ける側とをうまく繋ぎ両者にとってプラスになる仕組みになるのではないだろうか。

事業者間の交流については、事業者にとっては魅力的なものとなると思われる。

宮津委員 ただ単に寄附をする側、助成を受ける側が集い、活動をPRする場を設けるのもいいのではないか。

座 長 寄附をする側、助成を受ける側に「特典（メリット）」をどう魅力あるものにするかが重要になってくるかと思う。

3. 事業報告会の実施

座 長 事業報告会は1回で良いと思うが、途中で「あいぼーと文化祭」等で事業期間の途中で報告会的なものを開催すれば、次年度助成を希望する団体が参考になるメリットがあるのではないだろうか。

4. 「寄附の仕組み」に対しての意見のまとめ

特に意見なし。

III 運営のしくみ

1. 運営業務の項目、運営主体について

座 長 条例に関わることなので、事務局で精査をお願いしたい。

2. 市の負担について

座 長 これも「1」同様、事務局で精査をお願いしたい。

3. 「運営の仕組み」に対しての意見のまとめ

座 長 審査会を公正、中立な立場で行うのが重要である。

IV その他の支援制度

1. 社会貢献型自動販売機の設置

座 長 この他にもいろいろ有ると思われるが、買っただけで貢献するといった簡単な手法で、かつ効果的と思われる。

平林委員 社会貢献型自動販売機である事はひと目でわかるように工夫をするのか。

事務局 ラッピングを施す事になる。

平林委員 社内においている自動販売機の売り上げの一部を東日本大震災に寄附をするようになった。

年間で2万6千本販売実績があるようで、寄附額もそれなりの金額になると見込んでいる。

いろんな、企業への売り込みをしても良いのではと思う。

宮津委員 業者間の競争をあおるようにならないように配慮すべき。

事務局 設置者・メーカー等で合わせて寄附をしていただく仕組みを

考えているので、過当競争にはならないと考えている。

2. 「その他の支援制度」に対する意見のまとめ
意見なし

第3 熊本市市民公益活動資金支援制度のあり方

1. 熊本市市民公益活動資金支援制度の目的
2. 熊本市市民公益活動資金支援制度の理念
3. 熊本らしさ

座 長 報告書全体の構成（順番）について提案したい。

この「第3」の項目については、「第1」の後ろに置き換えてはどうか。

「第1」で検討会議の役割、「第2」において支援制度の目的、基本理念を書き込み、「第3」で各論（具体的施策）の順とした方がよいのではと思う。

現行案のように、最後に理念等がでてくると「逆立ち」しているような構成になる。

総論をまず出して、支援制度の必要性、運用する為の各論・仕組み作りという順にすれば、提言として落ち着くと思われる。

事務局 検討する。